

旭川肢体不自由児総合療育センターの改築整備が決定

全面改築から34年が経過し狭隘化や老朽化が激しいため早期の整備が求められていた旭川肢体不自由児総合センターの改築が決まりました。6月の補正予算で基本・実施設計費として、まず3200万円が計上されました。改築は、旭川市春光台の現在地での建て替えとなり、2019年からの利用開始を予定しています。同センターの現在のグラウンドに新施設を建設し、完成した後、現在の施設を取り壊します。旭川養護学校は現校舎を引き続き利用する予定です。

住民ニーズに応える地域包括ケア 北広島団地の取り組みを視察



誰もが慣れ親しんだ地域で安心して暮らし続けられる仕組みを目指す地域包括ケアシステムについて、北広島市の北広島団地地域サポートセンター「ともに」を視察し、関係者と意見を交換しました。このサポートセンターは3年前に閉校した市立小学校を改修し、サービス付き高齢者向け住宅やグループホーム、さらに訪問看護やホームヘルプステーションなどの機能を併せ持った複合施設です。体育館などを地域交流の

北広島団地の地域包括ケアで意見交換

拠点として活用し、住民に開かれた施設運営を目指しています。三瓶徹総合施設長は「住民と行政、事業者でつくる委員会で議論し住民ニーズに応える運営を心掛けている」と強調、多くの市民が利用しやすいような交通手段の支援について要望がありました。

道議会では、地域包括ケアシステムを支える介護施設と医療機関のスムーズな連携の取り組みを質問。道は医療と介護を一体的に提供する仕組みづくりは重要とした上で「(関係する)多様な職種顔の見える関係づくりを進め、関係機関の情報共有に使用する共通連携ツールの普及に努めるなどして、地域における医療と介護の連携強化を支援していく」と答弁しました。

支え合う、暮らしやすいまちづくりに全力！